

## 會 務

第20卷第11號 昭和9年11月

## 役 員 會

## 臨時役員會

開催日 昭和9年10月9日

出席者 會長 久保田敬一君  
 副會長 米元晋一君 草間偉君  
 前會長 岡野昇君 中川吉造君 那波光雄君  
 名井九介君 眞田秀吉君  
 常議員 池邊稻生君 衣斐清香君 内海清温君  
 神原信一郎君 永田民也君 田邊良忠君  
 野口寅之助君  
 常議員兼編輯長 田中豊君

## 決議並に報告事項

## 決 議

## 1. 關西地方風水害調査委員會設置の件

(イ) 關西地方風水害調査委員會を設置し次の如く委員長並委員を依囑することゝす。

委員長	中川吉造君			
副委員長	青山土君	平井喜久松君		
委員	荒木文四郎君	井上隆根君	伊東祐介君	内山新之助君
	上田柳一君	岡部三郎君	小坂進君	兒島重次郎君
	近藤泰夫君	佐藤鼎君	清水照君	鈴木雅次君
	關信雄君	田代瑞穂君	田中憲造君	田中豊君
	高田景君	高西敬義君	高橋三郎君	谷口三郎君
	田島嘉吉君	中川幸太郎君	糠澤惟介君	野口寅之助君
	野田林太郎君	長谷川勝伍君	平山復二郎君	福留並喜君
	吉谷晋君	三浦七郎君	三宅發造君	三輪周藏君
	宮本武之輔君	物部長穂君	山内喜之助君	山田隆二君
	吉岡計之助君	以上40名		

(ロ) 土木學會關西支部に於ても調査に關し役員會開催の筈に付本部の決議を通知し委員依囑等の意見を聴取することゝす。

## 2. 燒夷彈防火研究會に關する件

本會より次の3名に出席を依頼し研究することゝす。

草間偉君 福田武雄君 古川淳三君

3. 日本工學會よりケルビン賞牌受領者推薦方照會の件は前同日本工學會より推薦の理學博士本多光太郎君を推薦することゝす。

4. 工業品規格統一調査會より照會の件は日本工學會コンクリート調査委員會に依頼し日本工學會と連名にて回答することゝす。

5. 維新以前土木史編纂並に出版に關し學術振興會へ補助申請を提出することゝす。

### 報 告

6. 9月27日開催日本工學會評議員會及10月4日開催同會臨時評議員會及社員總會の議事を報告す。  
7. 土木工學論文抄録に關し中間報告をなす。  
8. 二十周年記念廣告に關し中間報告をなす。  
9. 秋季視察旅行決定案の報告をなす。

### 第9回役員會

開催日 昭和9年10月23日

出席者	會長	久保田敬一君			
	副會長	米元晋一君	草間	偉君	
	前會長	野村龍太郎君	岡野	昇君	中川吉造君
		那波光雄君	名井	九介君	
	常議員	池邊稻生君	衣斐	清香君	内海清温君
		河原直文君	金森	誠之君	田邊良忠君
		永田民也君			
	常議員兼主計	佐藤利恭君	同兼編輯長	田中	豐君

### 決議並に報告事項

#### 決 議

- 昭和9年度更正追加豫算の件は原案の通り承認す。
- 機械學會より申出に係る機械用鋼索規格制定委員會委員を本會より1名推薦の件は橋口行彦君を選出することゝす。
- 東京市政調査會發刊の10年社用日本都市年鑑を本會會誌にて紹介方依頼の件は會務に掲載することゝす。
- 入退會の件

小田部六郎君外12名を會員に秋月弘一君外55名を准員に安部康久君外51名を學生員に帝國=ユーヒーム鋼管株式會社代表齋藤義臣君を特別會員として入會を承認し准員樺引孝一君外4名を會員に轉格承認せり、會員森良藏君、准員出井泰三郎君及び准員志賀清君は死亡せり。

### 報 告

- 二十周年記念祝賀準備委員會の協議事項を報告せり。
- 關西支部役員會議事を報告せり。
- 土木學會史編纂の經過に就き名井委員長より報告せり。
- 土木工學論文抄録出來上りに就き中川委員長より報告せり。

## 編 輯 委 員 會

### 第10回編輯委員會

開催日 昭和9年10月8日

出席者	編輯長	田中	豐君		
	委員	龜田	素君	野口	誠君
				福田	武雄君

星野茂樹君 堀越一三君

協議事項

- 1. 第 20 卷第 9 號所載論說報告に對する討議依頼先を決定す。
- 2. 第 20 卷第 9 號所載論說報告, 討議, 彙報, 參考資料に對する謝禮を決定す。
- 3. 第 20 卷第 11 號登載論文を決定す。

第 11 回 編輯委員會

開催日 昭和 9 年 11 月 5 日

出席者 編輯長 田 中 豊君  
 委員 青 木 楠 男君 中原 壽一 郎君 永 田 年君  
 野 口 誠君 福 田 武 雄君 堀 越 一 三君

協議事項

- 1. 第 20 卷第 10 號所載論說報告に對する討議依頼先を決定す。
- 2. 第 20 卷第 10 號所載工事寫眞, 論說報告, 彙報, 參考資料に對する謝禮を決定す。
- 3. 第 21 卷第 1 號登載論文を下記の通り決定す。

工事寫眞: 丸子橋竣功寫眞

論說報告: 不穩定構造の解法に應用したる撓角分配法	會工博	鷹 部 屋 福 平
佐賀線筑後川橋梁上部構造に就て	會工	稻 葉 權 兵 衛
坂道に於けるコンクリート鋪裝に就て	會工	佐 野 俊 男
丸子橋鐵部工事報告	准工	綾 龜 一
討 議: 北滿に於ける架橋工事の 1 例	會工	石 井 三
Theory of Influence Equations	准工	横 道 英 雄
彙 報: 佐賀線筑後川橋梁可動裝置に就て		坂 本 種 芳
清津橋架換工事概要	會	福 田 弘
特許抄録: 道路振動防止裝置, 多働掘鑿機, 會網法留工の改良, 沈澱池に於ける沈澱物		
排出裝置, セメント防水耐酸壁の築造法		
參考資料: 拱橋の擴張と補強, 偏心鐵結に關する 2, 3 の解法, 鉸結接手を荷重作用の		
儘銲接にて補強したる場合の強度, 地震時に於ける建造物の振動理論, 印度		
地方の地震による Bengal North Western 及び Tirhut State Railway		
に於ける災害狀況, 穀倉 (Silo) 内及び地盤内に於ける壓力分布, 模型の相似		
條件, 貯水池内の土砂の堆積		

- 4. 其の他の登載決定せる論文は下記の如し。

論說報告: The Application of the Theory of Influence Equations for the Analysis of Secondary Stress in Truss Bridge.	准	御 厨 忠 文
踏切着手勤務制の改正に就て	會工	岡 部 二 郎
特殊架構論	准工	横 道 英 雄
撓角分配法に依るトラスの 2 次應力計算法に就て	會工博	鷹 部 屋 福 平
嫩江橋梁架設工事に就て	准工	龍 野 繁 太 郎
拱の振動に就て	准工	最 上 武 雄
討 議: 隧道工事に對してセメント注入の應用	會	鶴 田 勝 三
參考資料: 可動橋に於ける軌條連結裝置		

## 5. 土木學會創立 20 周年記念號發刊之件

土木學會創立 20 周年記念號は會誌第 12 號を以て充つる事として決定す。

## 6. 昭和 9 年度優秀論文に關する件

**20 周年記念祝賀準備委員會****第 3 回 委 員 會**

開催日 昭和 9 年 10 月 18 日

出席者 委員長 眞田 秀吉君

副委員長(祝賀主任) 茂庭 忠次郎君

同 (見學主任) 小川 織三君

委員 衣斐 清香君 池邊 稻生君 樺島 正義君

永田 兵三郎君 西大條 覺君 關 毅君

會長 久保田 敬一君

副會長 草間 偉君

主事 古川 淳三君

**協 議 事 項**

## 1. 祝賀會當日の委員を次の通り定め役員會に報告することゝす。

○受付係 田村 與吉君 森田 三郎君

○接待係 田中 豊君 衣斐 清香君 永田 民也君 鈴木 雅次君

佐藤 利恭君 小川 織三君 錢高 作太郎君 樺島 正義君

永田 兵三郎君 關 毅君 中原 壽一郎君 末森 猛雄君

永田 年君

○餘興係 内村 三郎君 金森 誠之君 青木 楠男君

○式場係 池邊 稻生君 茂庭 忠次郎君 古川 淳三君 野口 誠君

龜田 素君

○宴會係 内海 清温君 神原 信一郎君 田邊 良忠君 河原 直文君

野口 寅之助君 井上 秀二君 西大條 覺君 福田 武雄君

星野 茂樹君 堀越 一三君

## 2. 祝賀會會場に於ける來賓メーンテーブル順位の件は來る 22 日の委員會にて定むることゝす。

## 3. 新議院見學當日建築の概要をパンフレットとして參加員に配布することゝす。

## 4. 祝賀會招待追加を會誌廣告先、記念號廣告申込先、關係團體役員とすることゝす。

**第 4 回 委 員 會**

開催日 昭和 9 年 10 月 22 日

出席者 副委員長(總務主任) 井上 秀二君

" (祝賀主任) 茂庭 忠次郎君

" (見學主任) 小川 織三君

委員 衣斐 清香君 池邊 稻生君 内村 三郎君

田村 與吉君 樺島 正義君 西大條 覺君

永田 兵三郎君

會長 久保田 敬一君

副會長 米元晋一君

#### 協議事項

1. 祝賀會各係委員は 18 日委員會申合の通りとし各委員に通知することゝす。
2. 来る 25 日午後 4 時より特別委員會を開催することゝす。
3. 祝賀會、見學會當日萬遺憾なきを期する爲め種々協議をなせり。

#### 特別委員會

開催日 昭和 9 年 10 月 25 日

出席者 委員長 眞田秀吉君  
 副委員長(總務主任) 井上秀二君  
 “ (祝賀主任) 茂庭忠次郎君  
 “ (見學主任) 小川織三君  
 論文抄録編纂委員長 中川吉造君  
 講演會委員長 那波光雄君  
 土木學會史編纂委員長 名井九介君  
 會長 久保田敬一君  
 副會長 米元晋一君 草間 偉君  
 主計 佐藤利恭君  
 主事 古川淳三君  
 編輯長 田中 豊君

#### 協議事項

1. 祝賀宴會メーントーブル順位を決定せり。
2. 卓上演説者は古川主事に於て前會長 1 名地方會員 5, 6 名を選衡し會長まで報告し決定することゝす。
3. メーントーブル以外のテーブルマスターを 12 名決定せり。

### 土木學會關西支部記事

○昭和 9 年 10 月 11 日午後 5 時 30 分より中央電氣俱樂部に於て第 7 回役員會を開催し支部長松島寛三郎君外 11 名出席下記事項を協議せり。

#### 協議事項

1. 第 5 回土木工學研究會の件
2. 風水害に關する件
3. 土木用材總覽編纂經過報告の件

○昭和 9 年 10 月 25 日午後 5 時 30 分より中央電氣俱樂部に於て第 8 回役員會を開催し支部長松島寛三郎君外 12 名出席下記事項を協議せり。

#### 協議事項

1. 第 5 回土木工學研究會の件
2. 土木用材總覽編纂の件
3. 風水害調査委員會の件

## 4. 會員入會の件

○昭和 9 年 10 月 30 日午後 5 時より中央電気俱樂部に於て記念事業委員會を開催し委員長福留並喜君外 10 名出席下記事項に就き協議せり。

## 1. 土木用材總覽編纂の件

---

**日本工學會記事**


---

昭和 9 年 9 月 27 日午後 4 時 30 分より日本工業俱樂部に於て日本工學會評議員會を開催し下記事項を決議せられ次で一般會務の報告ありたり。

## 1. ケルビン・メダル受賞候補者選定の件

英國ケルビン賞委員會より 1935 年度に於て授賞すべきケルビン賞受領候補者を選出し昨年 1 月 1 日迄に通知ありたき旨申越しありたるを以て各學會より其の候補者を選出し次回評議員會に附議決定することとし十二學會に對し 10 月末日迄に候補者の選定方を申送ることとし

尙本件に關し數學物理學會に對し同委員會より依頼の有無を問合せたる處今度も又過去に於ても別段依頼なき趣なり。

## 2. メートル法反對運動對策に關する件

本會に於ては客年 8 月各省大臣其の他の關係向に對しメートル法專用方に關する意見書を提出したが其の後前議會には度量衡制度調査會設置に關する建議案提出せられ其の可決を見近く同調査會設置せらるゝ模様なり其の狀況により或は本會よりメートル法專用斷行に關する意見書を提出する必要を生ずることあるやも計られず是等臨機之處置に關しては理事に一任することに決す。

昭和 9 年 10 月 4 日午前 10 時本郷區駒込曙町斯波邸に於て日本工學會臨時評議員會及社員總會を聯合にて開催し下記事項を決議せられ次で會務の報告ありたり。

1. 斯波理事長薨去せられたるに付日本工學會より靈前に供物を呈すること並に之等に要する經費は豫備費より支出すること
2. 弔詞は日本工學會より呈し花輪を日本工學會並に各學會より贈呈すること及告別式當日各學會長並に各評議員は葬儀委員たること等を申合せり
3. 理事長欠員中は佐野、西脇兩理事に於て會務を處理し必要に應じ藤島評議員の指導を仰ぐことに總員の諒解を得たり

---

**維新以前日本土木史編纂委員會**


---

開催日 和 9 年 10 月 24 日午後 5 時

出席者 副委員長 眞 田 秀 吉君  
 委 員 江 澤 甚 一君 大河 戸 宗 治君 前 川 貫 一君 小 川 織 三君  
 那 波 光 雄君 眞 島 健 三 郎君 茂 庭 忠 次 郎君 安 藝 杏 一君  
 板 井 申 生君 赤 木 正 雄君  
 囑 託 渡 邊 俊 一君

**決 議 事 項**

- (1) 第十一部門雜の部（施工法の變遷を含む）に於て技術者の傳記の概要を年表的に挿入するに就てはな

るべく來月中までに各部門に於ける技術者としての代表的なる人物につき其年代事業名簿の所屬姓名を學會宛に記載せられ送附されたき旨を缺席の委員へ通知すること。

- (2) 家康時代に於ける静岡市街圖を寫眞撮寫のこと。  
 (3) 其他紹介事項數件。

第十一部門雜の部（施工法の變遷を含む）の目次次の如し。

### 第一章 工事用器具

- 第一節 土工用具  
 第二節 土工用具  
 第三節 石工鍛冶用具と鍛冶  
 第四節 水碓用具  
 第五節 搗固抗打波濺と用具  
 第六節 運搬用具  
 第七節 纜轆の沿革と大木の運搬

### 第二章 施工技術

- 第一節 巨石の運搬岩礁の破棄石堤築方  
 第二節 土堰堤築方  
 第三節 隧道溝渠洗堰の施工法  
 第四節 河川締切旱拓締切堤防決浪急修理

### 第三章 功勞者略傳

(以 上)

## その他の記事

- 昭和 9 年 10 月 2 日附にて内務大臣より土木學會誌は毎號納本のみを爲し其都度届出の手續省略の件出版法第 10 條に依り許可せらる。
- 昭和 9 年 10 月 24 日土木學會誌第 20 卷第 10 號發行成規の手續を了し 10 月 25 日これを全會員に配布せり。
- 昭和 9 年 10 月 22 日日本會集會室に於て 10 年以上勤務職員に對し表彰式を舉行し記念品を贈呈せり。
- 昭和 9 年 10 月 24 日日本會々長久保田敬一君ラヂオにて國民生活より觀たる土木工學に就て講演を爲せり。
- 昭和 9 年 10 月 26 日より 3 日間に涉り本會創立 20 周年記念大會を開催せり。
- 昭和 9 年 10 月 29 日より土木工學論文抄録を全會員其他へ發送の手續をなせり。
- 昭和 9 年 11 月 7 日より 3 日間に亙り第 3 回上水協議會總會が横濱市開港記念館に於て開催せられ本會より會長代理として副會長長米元晋一氏が出席せられた。
- 昭和 9 年 10 月 22 日までに於て下記諸君を入會又は轉格の手續を了し名簿に登録せり。

### 入會特別會員

帝國ニューニウム鋼管株式會社代表 齋藤義臣君

### 入會々員

赤岡兵三郎君	久保田秀雄君	栗原一枝君	小林紫朗君
小田部六郎君	近藤錢太郎君	田村貞吉君	近野留三郎君
豊田哲夫君	中野貞衛君	船崎惣之助君	松田博文君

森 勝 吉君

入 會 准 員

鶴 飼 孝 造君  
 奥 村 芳 定君  
 白 濱 芳 雄君  
 田 島 密君  
 戸 田 巖君  
 西 池 忠君  
 三 浦 龍 治君  
 森 重 一 夫君  
 山 田 清 定君  
 大 久 保 一 郎君  
 島 田 武 夫君  
 中 西 健 吉君  
 松 島 忠 雄君  
 河 浦 源 次君

秋 月 弘 一君  
 大 石 重 夫君  
 久 野 坪 素 夫君  
 鈴 木 三 郎君  
 竹 重 貞 藏君  
 德 田 斌君  
 額 賀 慶 三 郎君  
 向 澤 文 男君  
 八 木 謙 治君  
 井 上 靜 三君  
 川 名 和 四 郎君  
 田 島 公 次君  
 長 尾 健 一君  
 前 田 潤君

池 田 江 東 男君  
 大 河 原 逸 郎君  
 栗 岡 孝 一君  
 曾 我 英 丸君  
 竹 田 生 活君  
 富 山 勤君  
 福 島 俊 基君  
 村 永 三 友君  
 山 本 勸君  
 岩 井 鐵 二君  
 細 山 角 三君  
 田 中 武 熊君  
 本 城 信 治君  
 前 橋 清 三 郎君

石 川 利 雄君  
 太 田 勇 太 郎君  
 佐 々 木 亘君  
 造 兔 愛 惠君  
 千 葉 健 治君  
 中 村 正 俊君  
 堀 江 清 司君  
 森 次 三 男君  
 田 中 精 一君  
 小 田 重 久君  
 式 田 十 郎君  
 高 橋 喜 佐君  
 松 浦 作 造君  
 丸 山 義 雄君

入 會 學 生 員

安 部 康 久君  
 石 川 一 三君  
 岡 崎 義 正君  
 川 口 隆君  
 木 下 淳 一君  
 藏 本 忠 二君  
 鈴 木 勇 君  
 瀧 田 重 之君  
 中 村 清君  
 濱 田 一 太 郎君  
 藤 田 正 巳君  
 宮 田 勝 次 郎君  
 若 林 扶 夫君

青 柳 敏 郎君  
 上 田 健 太 郎君  
 奥 正 春君  
 河 上 房 義君  
 北 村 祐 彌君  
 小 土 井 善 雄君  
 鈴 木 慎 一君  
 手 島 友 之君  
 馬 場 繁 市君  
 日 高 作 市君  
 松 重 正君  
 森 吉 滿 助君  
 金 鼎 鉉君

赤 松 一君  
 小 川 光 昌君  
 片 平 信 貴君  
 河 原 清 一 郎君  
 工 藤 郁 郎君  
 國 分 正 胤君  
 田 中 五 郎君  
 戸 井 田 宥 一君  
 島 山 正君  
 深 井 憲 一君  
 丸 島 正 男君  
 横 尾 誠 吾君  
 大 淵 登 喜 義君

伊 佐 英 一君  
 大 森 美 忠君  
 片 山 泰 夫君  
 菅 野 正君  
 久 米 次 郎君  
 齋 藤 外 吉君  
 田 村 勤君  
 中 川 太 郎君  
 服 部 主 計君  
 藤 井 數 雄君  
 三 野 茂 夫君  
 横 見 正君  
 鈴 木 外 夫君

轉 格 會 員

柳 引 孝 一君  
 森 鹿 之 助君

武 本 光 太 郎君

須 田 正 雄君

原 芳 男君

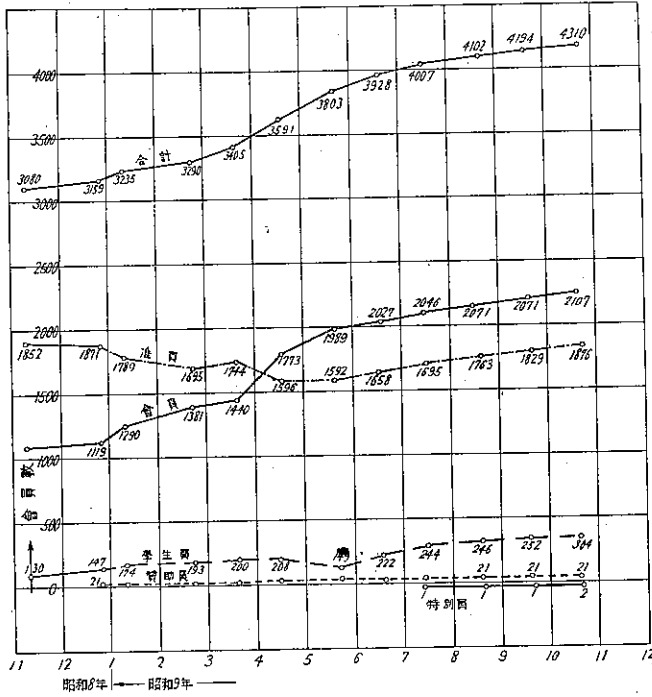
○昭和 9 年 10 月中に於て寄贈又は交換を受けたる雜誌下記の如し

朝鮮直轄河川工 事年報	昭和 6 年度	朝 鮮 總 督 府	國 立 公 園 6 卷 10 號	國 立 公 園 協 會
朝 鮮 の 將 來		〃	日 本 ニ ッ ケ ル 時 報 2 卷 4 號	日 本 ニ ッ ケ ル 情 報 局
昭 和 七 年 度 直 轄 工 事 年 報		内 務 省 土 木 局	モ ネ ル ・ メ タ ル 及 可 鍛 ニ ッ ケ ル の 銲 接 法	日 本 ニ ッ ケ ル 情 報 局
セ メ ン ト 界 彙 報 319 號 10 月 號		セ メ ン ト 界 彙 報	衛 生 工 業 協 會 誌 第 8 卷 9 號	衛 生 工 業 協 會
都 市 問 題 19 卷 4 號		東 京 市 政 調 査 會	滿 洲 電 氣 協 會 々 報 24 號 9 年 5 月	滿 洲 電 氣 協 會
第 2 回 工 學 會 大 會 記 錄		日 本 工 學 會	工 政 174 號 9 年 10 月	工 政 會
業 務 研 究 資 料 22 卷 32 號		鐵 道 大 臣 官 房 研 究 所		



東京土木建築業組合報	7 卷 9 號	東京土木建築業組合	工學部紀要	第3冊第7號	北海道帝國大學
電氣學會雜誌	54卷10册555號	電氣學會	日立評論	18卷第7號	日立評論社
港灣	12卷10號	港灣協會	衛生工業協會誌	第8卷10號9年10月	衛生工業協會
工學	242卷	東京工學社	日本鑛業會誌	第50卷第594號	日本鑛業會
鑄物	第6卷10號	鑄物協會	水道協會誌	第18號9年11月	水道協會
工學院同窓會誌	36卷10號	工學院同窓會	鐵と鋼	第20年10號	日本鐵鋼協會
工業現勢	3卷10號	東京工業大學工業調查部	三菱電氣	第10卷第8號	三菱電氣株式會社
道路の改良	16卷10號	道路改良會	一里塚の話		眞田秀吉
都市問題	19卷4號	東京市政調查會	工學院同窓會誌	第36卷第11號	工學院同窓會
建築と社會	17輯10號10月	日本建築協會	國立公園	第6卷第11號	
沖電氣時報	VOL. I. No. 5	沖電氣株式會社	東京土木建築業組合報	第7卷第10號	東京土木建築業組合
鐵と鋼	20卷9號9月	日本鐵鋼協會	工學	No. 243 NOV. 1934.	東京工學社
機械學會誌	37卷210號10月	機械學會	建築と社會	第17輯第11號	日本建築協會
造船協會雜誌	150號9月	造船協會	日本標準規格	第6輯及第7輯	商工省(工業品規格統一調查會)
G S news	8卷9月	日本電池株式會社	業務研究資料	第22卷35, 36, 37號	鐵道大臣官房研究所
セメント工業	9年10月	セメント工業株式會社	東京工業大學學報	第3卷10號	東京工業大學
滿洲電氣協會會報	20卷9月	滿洲電氣協會	動力	32昭和9年10月	日本動力協會
水道協會雜誌	17號	水道協會	會務彙報	第35卷	日本土木建築負諸業者聯合會
日立評論	18卷第10號	日立評論社	工事安全讀本(土木の卷)		" "
實踐上水道	3卷	コロナ社	日本建築士	第15卷第4號	日本建築士會
工人	No. 149. 9年9月	日本工人俱樂部	日立機械評論	第18卷	日立評論社
東京工業大學學報	3卷9號	東京工業大學	港灣	第12卷第11號	港灣協會
業務研究資料	22卷22號及34號	鐵道大臣官房研究所	土木建築雜誌	第13卷第11號	シビル社
鐵道技術	第8卷11號	鐵道技術社	道路の改良	第16卷第11號	道路改良會
資源	4卷6號	資源局	航空機用高壓磁石發電機に就て		藤澤電氣株式會社
工人	10月號	日本工人俱樂部	機械學會誌	第37卷第211號	機械學會
建築雜誌	第48輯 590號 10月	建築學會	世界に於ける最近の高速鐵道		大阪市電氣局
セメント工業	9年11月	セメント工業社	工事畫報	第10卷117號	工事畫報社
工事畫報		工事畫報社	工學報告	第11卷第3號	東北帝國大學
工學報告	第11卷第3號	東北帝國大學			

會員移動一覽圖表



○死亡會員

會員 森 良藏君昭和 9 年 10 月逝去せられたり、本會は恭しく哀悼の意を表す

准員 田井泰三郎君昭和 9 年 9 月 20 日逝去せられたり、本會は恭しく哀悼の意を表す

昭和九年十月十五日

財団法人 東京市政調査會

土木學會 御 中

拜啓時下愈御清榮の段奉賀候 陳者每々御機關誌御交換御寄贈賜り居候段難有厚く御禮申上候 近く「日本都市年鑑」昭和十年用刊行致し候に就ては發行要項書別途御送附申上候間貴誌最近號の餘白なりに於て適宜右年鑑御紹介賜るを得候は幸甚の至りに奉存候 誠に勝手々間敷御願にて恐縮に不堪候得共任げて御承引賜り度伏て奉懇願候先は御願旁得貴意申候 敬具

財団法人 東京市政調査會編纂

「日本都市年鑑」昭和十年用發行要項

1. 體裁 菊判 總クローズ製 背金字入 函入全一冊
2. 頁數 本文九百十八頁
3. 内容 本文二五篇 附録三篇 別記目次大綱の如し
4. 特色

- (1) 前回版が、簡約を旨としたに對し、今回は載録事項を増加し内容の詳密なるを期した。
  - (2) (イ) 外地の事實を採り入れることに努めて、名實共「日本」都市年鑑たるに相應しからしめ、(ロ) 國及道府縣に關する統計を加へて、都市の全國に於ける地位を明かならしめ、(ハ) 外國の統計をも引用して國際的比較を可能ならしめた。
  - (3) 昭和九年の市制施行地に就ては勿論、近く市となるべき實力ある町村に就ても、資料を蒐集包括するに努めた。
  - (4) 新に調査した項目としては、(イ) 國及地方議會議員、(ロ) 靈地保存及觀光優勝施設、(ハ) 住宅、(ニ) 市に關する各種行政上の區域、(ホ) 國及道府縣の委任事務等がある。特に(イ)に就ては立制以來の事實を求めて選舉棄權狀況、市會議員勤続年數及年齢並職業調名譽職に對する費用辨償並報酬調等凡そ百頁餘を獻げたるは、選舉及議會制度再検討の論議感なる折柄、(ホ)の委任事務に關する包括的調査と共に地方行政研究者の逸すべからざる資料であらう。また各市の觀光客誘引對策講究狀況、スラムの狀態郵便區域警察區域等の市域と錯雜せる狀況等を明かにした諸表も亦興味あることと信ずる。
  - (5) 舊來の項目中で改善を加へたものは枚舉に遑がないが、その一二を擧ぐれば、都市計畫に關聯して各地の土地區劃整理事業の概覽を可能ならしめ、電氣事業の表示に徹底的な改善を施し、結核豫防問題が重大となれるに鑑み關係資料を加へ各地の下水道改良計畫を特に重視して一表を加へ、又經濟方面では小賣業者の營業狀態、主要農産品の都市に於ける出廻狀況、給料生活者勞働者の家計狀態等の容易に入手し難き統計を挿入した等々々。
- 又本年鑑が財政に關して最も細心な注意を拂つて統計を掲げてゐることは發刊以來定評の存する所であるが、今回は九年度豫算につき前回版の數字を更改したるは勿論、之を更に擴充して、道府縣の歳入歳出に關する諸表を加へて、地方財政の觀察に一層完璧を期した。
- (6) 市政關係の主要訓令通牒、行政實例、裁判例、都市問題關係主要文獻の解説は前回版に初めて載せ好評を博したのであるが、今回は引續き爾後に現れたものを載録し、遺漏無きを期した。
  - (7) 全國都市及び關係主要町村の檢索に便するための一覽地圖や、重要市政事項を鳥瞰し得る都市一覽

表並に市長、市會議長の氏名録は本年鑑の實用價值を高めるであらう。

5. 定價 金五圓 (送料 東京市内六錢, 内地二十二錢 臺・樺 四十七錢 鮮・滿 六十二錢)
6. 特價 金參圓 (送料同上)
7. 特價期間 昭和九年十一月三十日迄
8. 刊行期日 十月中旬製本出來, 直ちに配本
9. 購讀申込方法 下記宛 (又は書店宛) 御申込の事

東京市麹町區日比谷公園

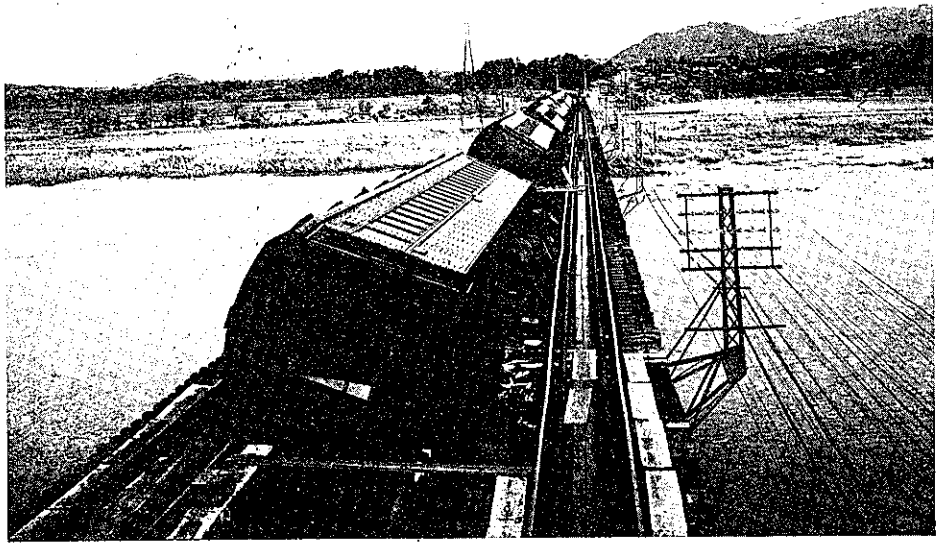
財團法人 東京市政調査會

(振替東京七一六〇九番)

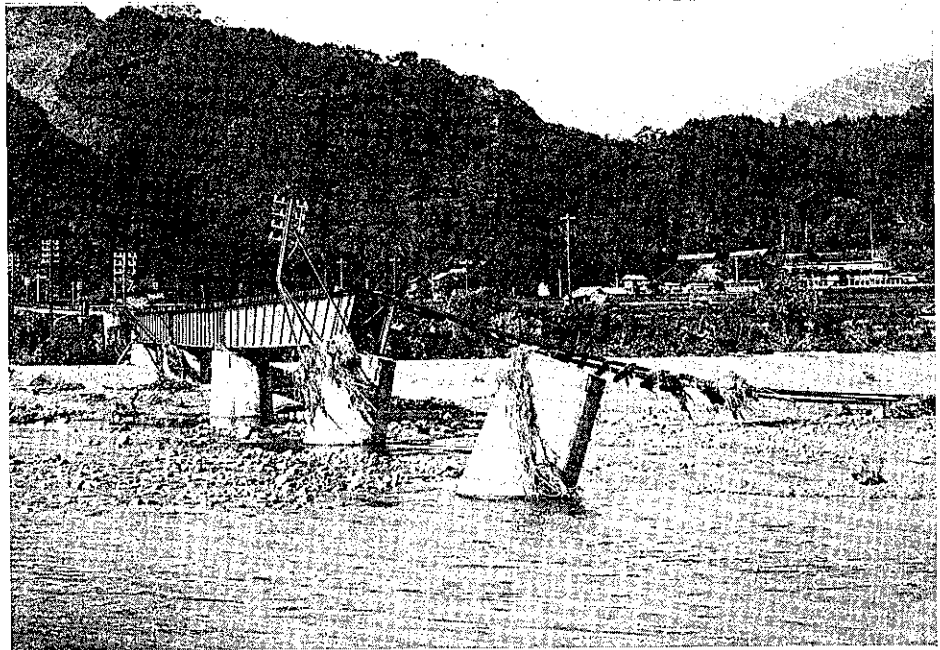
『日本都市年鑑』昭和十年用目次大綱

	頁數		頁數
1. 總說	17	17. 慰樂	22
2. 市の區域	39	18. 靈地保存並觀光保勝施設	26
3. 人口	38	19. 住宅	45
4. 國及地方議會議員	109	20. 社會事業	48
5. 都市計畫	38	21. 衛生	26
6. 國有鐵道	13	22. 警察, 消防	8
7. 道路, 道路交通	13	23. 經濟	63
8. 河川, 運河, 港灣	12	24. 財政	165
9. 航空	4	25. 國及道府縣の委任事務	23
10. 軌道及地方鐵道事業	15	(附錄)	
11. 乗合自動車事業	5	1. 最近に於ける市政關係主要訓令	
12. 上水道事業	20	通牒, 行政實例, 裁判例	15
13. 瓦斯事業	19	2. 都市問題關係主要文獻	36
14. 電氣事業	51	3. 世界各國人口二十萬以上都市の	
15. 市場	10	面積及人口	6
16. 教育	17	全國都市一覽圖	

## 關西地方風水害に因る被害寫眞

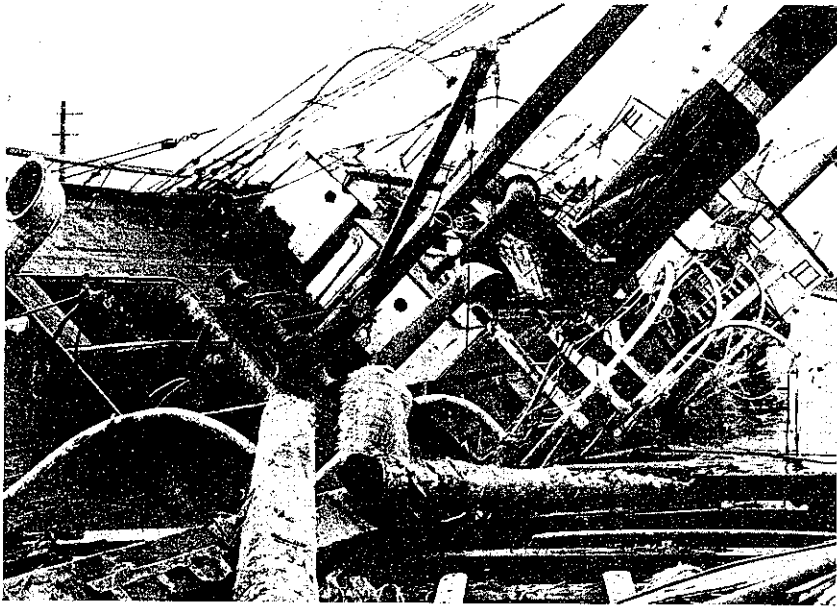


東海道線草津・石山間瀬田川橋梁上に於ける各等急行旅客第7列車顛覆狀況



伯備線黒坂・根雨間 112 km 100 m 地點第 2 日野川橋梁流失の狀況

(本會誌彙報欄 1349 頁參照)



大阪港内碇泊の船舶被害状況(瑞鳳丸)



大阪築港南第4号上屋と其の前面護岸の破壊状況

## 寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第御送り致します。
  - (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 180 枚（本會誌 30 頁）程度とされたし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあります。
  - (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビヤ文字を用ひられたし。
  - (4) 歐字は特に明瞭に認むること。  
n と u, u と v, r と v, a と α, r と γ  
その他頭字と小字とを判然たらしむる事。
  - (5) 原稿には必ず冒頭に英文表題及び邦文内容梗概並に著者の職名及び勤務所名を添附されたし。
  - (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。
    - (イ) 圖面はその盛縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とすること。
    - (ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。
    - (ハ) 方眼紙は青罫のものを用ひ（黄色、赤色の罫は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にてこれを描き置かれたし。
  - (ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉木に書き縮寫したる後明瞭たらしむる事。
  - (ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。
- (7) 寫眞は特に明瞭なるものを送られたし。
- (8) 論說報告、彙報、參考資料及び工事寫眞にして掲載せる分には謝禮を呈す。
- (9) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。

### 算式その他の記し方大體標準

- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 $a/b$  と書き  $\frac{a}{b}$  を避けること。 $(a+b)/(c+d)$  と書き  $\frac{a+b}{c+d}$  を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}x$  と書き  $\frac{x}{3}$  を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$  と書き  $\frac{a+b}{2}$  を避けること。 $\frac{a}{b+c/d}$  と書き  $\frac{a}{b+c\frac{1}{d}}$  を避けること。
- (3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
- (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様に書くことを避けること。  
83.4 尺（八丈三尺四寸）、7 吋（七吋）、35 錢（三十五錢）、13.56 圓（十三圓五十六錢）、1~4 時間（一乃至四時間）、88 326 ton（八萬八千三百二十六噸）、1931 年 1 月 1 日（千九百三十一年一月一日）、m（メートル）、 $m^3$ （立方米）、cm（釐）。

## 新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配布致すべきに付その以前の會誌御希望の場合は1部に付下記金額振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし

### 殘 部 内 譯

號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
卷													(円)
5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6	—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	*	*	1.00
18	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
20	*	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	1.00

東京市内外交通に關する調査書	3.00
震害調査報告書(1, 2, 3)	18.00
應用力學聯合大會講演集	1.00
鐵筋コンクリート標準示方書	0.50
同上解説	1.00
土木工學論文抄録	3.50

(備考: \* は殘部有るもの)

### 本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の住所の不明なるときは會誌の配布を始めその他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費支辨には差支なき様御配慮相成たし

### 會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若しこの集金書へ15日間で3回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京 16828 番に(拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事)御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又はその他の都合により支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けるときは爲替その他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自1月至6月 第1期分3月徴收	自7月至12月 第2期分9月徴收
會 員	金 12 圓	金 6 圓	金 6 圓
准 員	金 9 圓	金 4圓 50 錢	金 4圓 50 錢
學 生 員	金 6 圓	金 3 圓	金 3 圓

新に入會したるものは月割算として入會の翌月集金を發す

### 會 費 未 納 に 付 注 意

會費は年額を第1期第2期に分割し毎年3月9月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して放なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら定款第2章第14條第1項に依り遂に會誌の配布を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

### 會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎月25日(印刷又は原稿等の都合に依り遅延する事あり)に發行し漏なく配布すべきに付未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くて殘部皆無となり遺憾ながら配布は不可能のことあるべきに付御留意相成たし



## 雑誌閲覧に就ての會告

別記の寄贈並に交換雑誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は  
下記時間内御隨意に御閲覧相成度候。

### 閱 覽 時 間

日曜日及祭日休、土曜日自午前9時至午後4時、其他自午前9時至午後8時。  
但し役員會、委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被  
下度候。

### 廣 告 料

普通廣告	1回1頁	35圓	1回半頁	20圓
指定廣告	裏表紙3面對向 及廣告初頁	1回1頁	40圓	
	裏表紙3面	1回1頁	70圓	
	色アート	1回1頁	60圓	

- 指定廣告は凡て1箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對して總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連續掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

# DOBOKU-GAKKWAISHI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

---

VOL. XX, NO. 11, NOVEMBER, 1934.

---

## CONTENTS.

	Page
<b>Proceedings of the Society.</b> .....	139
<b>Address.</b>	
Recent Development of Arms.	
<i>By Tamotsu Aoki, Dr. Eng.</i> .....	1273
<b>Papers.</b>	
Theory of Buckling of Column, as applied to the Buckling of Railway Track Considered as a Long Fixed Column elastically resisted by Ballast.	
<i>By Takashi Inada, Dr. Eng., Member.</i> .....	1285
Snow Drains on Jōetsu-Line.	
<i>By Ichizo Horikoshi, Dr. Eng., Member.</i> .....	1301
The Application of Theory of Influence Equations for the Analysis of Tall Building Frames.	
<i>By Tadafumi Mikuriya, Assoc. Member.</i> .....	1309
<b>Discussions.</b> .....	1333
<b>Notes on Matters of Interest.</b> .....	1343
<b>Patent News.</b> .....	1359
<b>Abstracts of Selected Articles.</b> .....	1361

---

OFFICE

No. 6, 3-CHOME, MARUNOUCHI, KOJIMACHI-KU, TOKYO.